

体育教員が日本について英語で教えてみたら。 Vol.11

3月1日(水)、新学期が始まって最初のスポーツイベントはスイミングカーニバルでした。7年生(中1)、8年生(中2)全員と9年生・10年生の希望者が参加して、400~500人規模で行事が開催されました。WSCにはプールがないので、バス10台程度に乗り込んで、スポーツセンターに向かいました。近隣のスポーツセンターはとても大きくて、長田高校の体育館フロアほどのトレーニングルームと8×25mの室内プール、同サイズのレジャープール、フィットネススタジオ、バスケットボールコート6面の施設の横に8×50mの屋外プールがあります。さて、現地に着いたら学年毎にスタンドに座り、開会式も準備体操もないまま、さっそくポディーボードリレーが開始されました(きっとこれがウォーミングアップなのでしょう)。

それをやっている間に、今日のプログラムを作ります。スポーツカーニバルもそうでしたが、出場する種目は生徒が自分で決めます。50m×4泳法、全てに出場する生徒もいますし、クロールと平泳ぎの生徒もいます。また一つも出場しないという生徒もいます。出場希望を当日朝に取り、バスの移動中とポディーボードリレーをしている間に、泳ぐ順番やプログラムを考えるのです。泳ぐ順番は速いもの順で泳ぎます。自分のエントリータイムに沿って、速いものから並べられていきます。その場で準備をするのがオーストラリア流ですね。

各種目の個人レースの後には、学年とグループ毎のファンリレー(ボールを運んだりするようなもの)があります。このリレーだけ参加するのもいいですね。このリレーはプールの15mほどしか使わないので、この間他の先生は水にポチャンと入ってリラックス。オーストラリアらしい伸び伸びとした行事です。

学校のイベントを下支えしてくれる上級生がいるのもオーストラリア流です。スイミングカーニバルでの計時や機械入力、生徒の誘導などは10、11年生のレクリエーション担当のグループが手伝ってくれます。他の行事でも必ず生徒が中心、あるいは補助に回って運営が円滑に進むように活躍しています。

WSCの先生は、私にスターターという仕事を任せてくれました。

“Swimmers ready! Set!” (Beep!!)

日本とは声のかけ方が違うし、プールも大きいから大きな声を張り上げなければ声が届きませんでした。

プールの深さは片側が1.1mと浅めですが、もう一方は2.2mと深く造られています。これだけ深いとスタート台から跳んでも危険な事故は起こりにくいです。運営面や施設面などいろいろな面で日豪の違いを実感できました。

ちなみに体育科の粋な計らいで、最終レースに出場させてもらいました。ガッツリ、オーストラリアの生徒と勝負してきました。

